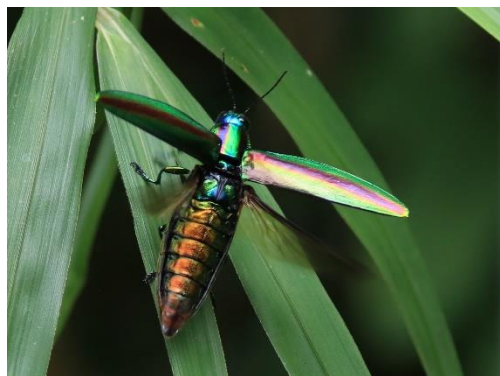




愛川ふれあいの村 今月の風景

2019年9月 自然のたより

残暑の中、台風がさらなる暑さを連れてきた9月。台風は暑さだけでなく各地に様々な傷跡を残していきました。台風が過ぎると虫たちはどこからともなく現れて、花の蜜を吸います。虫はその小さい体と、花はその細い茎にどうして台風に負けない力がありましょうか。動植物も人も災害から身を守る術を身に着けているようですね。それでも、晴れ間に姿を現す生き物や夜の声に耳を澄ませたなら、秋が見え聞こえてくるはずですよ。



ヤマトタマムシ



ツリフネソウ



オオスカシバ



アズマヒキガエル



ナガバノコウヤボウキ



シモバシラ



マルバダケブキ



ギンリョウソウモドキ



ハンミョウ



タマゴタケ



オオトリノフンダマシ



ツチアケビの実



ササキリ



カラスノゴマ



イラガセイボウの脱出

トピックス ★二百十日★

立春から数えて、210日後にあたる日は『二百十日』と呼ばれ、この時期（9月1日ごろ）は風や雨が強くなりやすいと言われています。今月初旬発生した台風15号により被害を受けた方は多くいらっしゃるのではないのでしょうか。ふれあいの村でも数本の樹木が風によってなぎ倒されました。

『二百十日』は雑節と呼ばれ、立春や立冬などの二十四節気や五節句では言い表すことができない季節の移り変わりを的確につかむためのものです。他には、“八十八夜や彼岸”などの雑節があります。昔の人も9月は台風が多いと感じたからでしょうか、『二百二十日』という雑節があり、この時期に来る少なくない台風に関心をつけていたようです。

私の子どものころ（20年前）、台風は沖縄や九州地方を通り、関西に入ると熱帯低気圧に変わることが多かった気がします。しかし、今では静岡県や関西地方から本州に入り、勢いを落とすことなく、東北地方や北海道まで被害を及ぼす台風が増加し、台風が来るたびに来るたびに気象庁からは過去最大級の大きさとして報道されている状況が見受けられます。

温暖化の影響により、台風の大きさや進行ルートが変わる現在、日頃からの天災への備えは重要視されています。それにとともに、昔からある言葉は変わっていく予感がします。『二百三十日』と言われる日は近いかもしれません。（鷲山）



生き物 ★百日紅★

ピンク色が印象的な百日紅（サルスベリ）の花が村内に咲き誇っています。幹はツルツルとし、木登り上手なサルですら登れないことが名前の由来の一つのサルスベリ。漢字にすると百日紅、約100日の間花を咲かせ続けます。驚くことに、一度咲いた枝先から新芽が出てさらに花が咲き続けるというこの花。夏から秋にかけての約3か月もの間、私たちを楽しませてくれる様子から、『雄弁』『活動的』という花言葉が付けられました。人を感じさせる堂々たる姿。ぜひ、一度見に来てみてください。（佐々木）

※村には紅白隣り合って咲いています



旬 ★クリ★

実りの秋です。何を思い浮かべますか？

秋の代表格『栗』は、世界中で食されています。大きく4種類、日本栗・中国栗・ヨーロッパ栗・アメリカ栗です。それぞれの栗に特徴があり、アメリカ栗は、病気に弱いので、果実としてほとんど利用がありません。中国栗は、天津甘栗が有名で、甘みが強く小粒で皮がむきやすいのが特徴です。ヨーロッパ栗は、小粒で渋皮がむきやすいのが特徴、マロングラッセで食されています。日本の栗は、粒が大きく茹でて調理するのに適しています。栗ご飯、渋皮煮、栗きんとん等でお馴染みかと思えます。いろいろな食べ方で『栗』を楽しんでみてください。（菅原）



来月の見どころ キノコの山
収穫の秋を迎え、黄金色の稲穂が田んぼ一面に広がり赤とんぼの群れが目立つようになってきた。雑木林に入るとすぐに目につくのが白いキノコ。見た目は真っ白で柄の上部に膜質の『つば』があり根もとには袋状の『つぼ』が見られる美しいキノコだ。このキノコはテングタケ科の仲間のドクツルタケで毒成分があり誤食しないように注意が必要だ。同じテングタケ科でオレンジ色のタマゴタケは美味なキノコである。時には、うどんの出汁として最高のナラタケの群生に出会うこともあるが、キノコは傷みが早く、毒キノコもあるので気を付けたい。

台風一過の2年前のことだったが、古い大きな力キノコにたくさん実がなつた。この力キノコは渋柿で、実が小さいわりに種が大きかった。その種に、鹿の角状の黄色いキノコがたくさん生えていたことがあった。力キノコの種が小さいことやキノコ自体もとても小さいので見つけにくい。

このキノコは、亜熱帯性の菌類で力キノミタケと言い県内では数例の発見記録がある珍しいキノコである。去年は、この力キノコの本、実が生らない年で見つけたことができなかったが今年は少し生っているのでもう一度見つけたいと思つた。（吉田）

